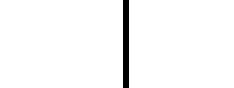
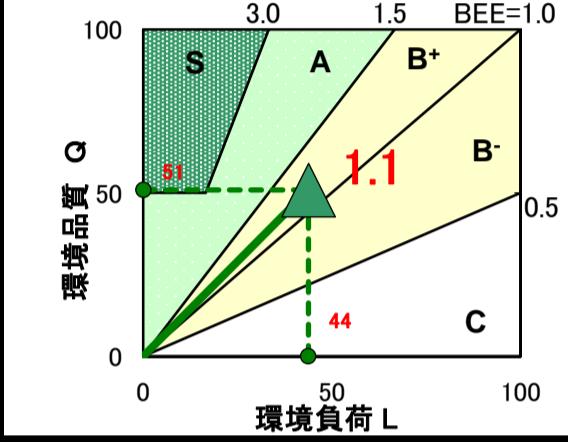
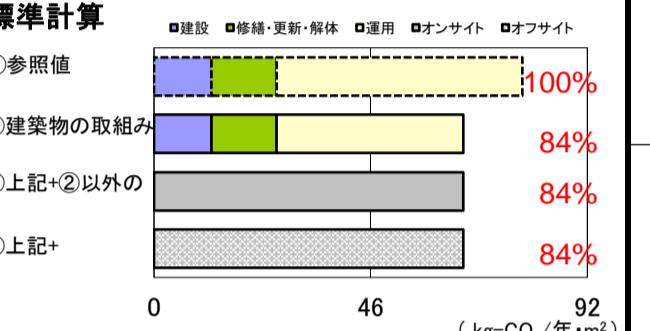
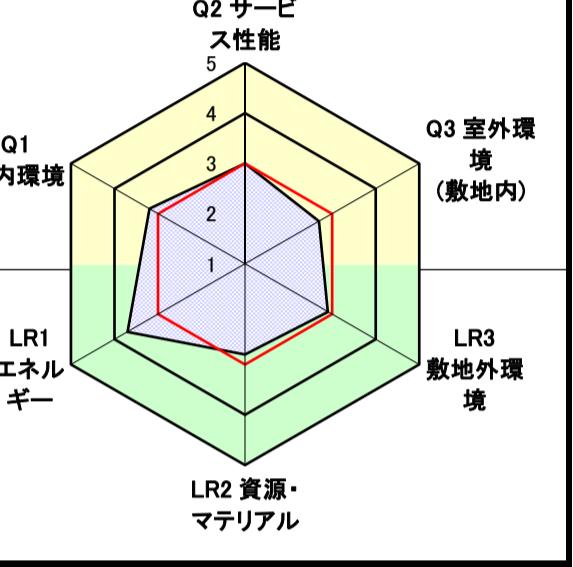


# CASBEE あいち

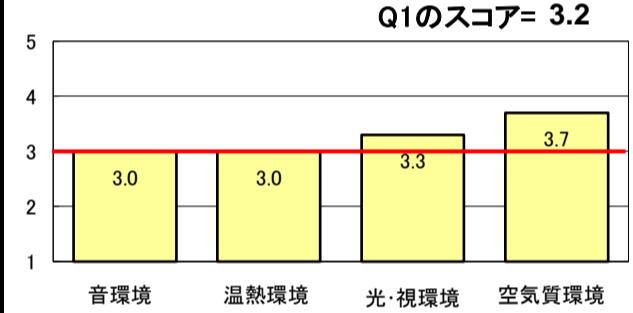
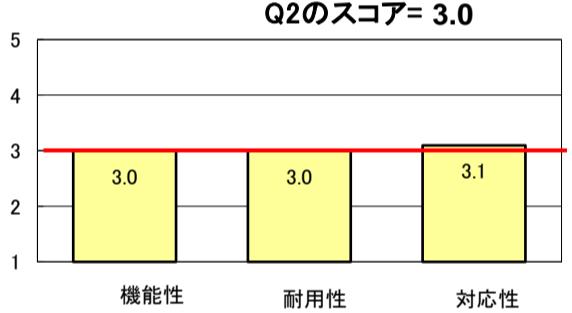
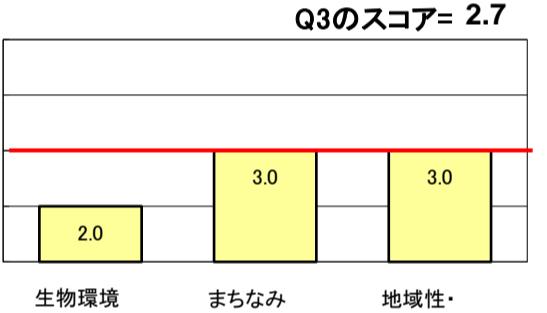
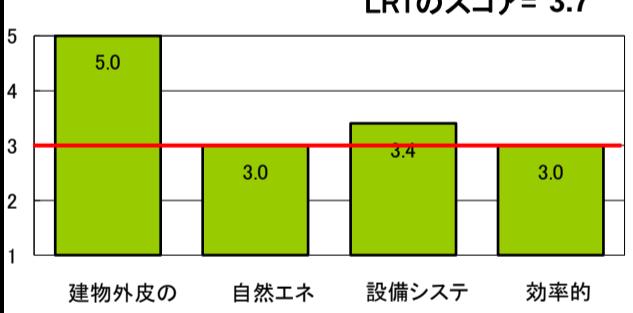
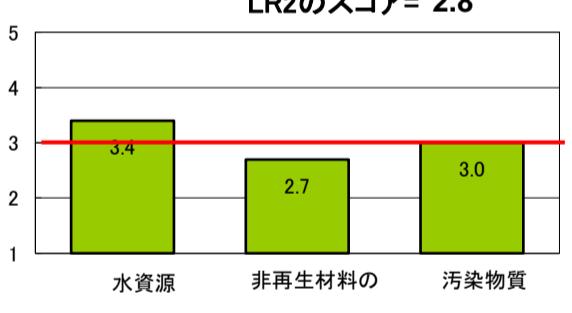
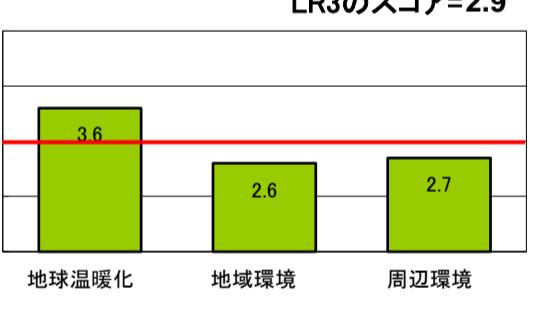
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)愛生館 複合施設	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県碧南市大堤町1丁目8番、他6筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、22条区域内	平均居住人員	250 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,745 時間/年
建物用途	事務所・学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年5月11日
敷地面積	8,059 m <sup>2</sup>	作成者	日置 和男
建築面積	2,027 m <sup>2</sup>	確認日	2021年5月14日
延床面積	2,703 m <sup>2</sup>	確認者	日置 和男

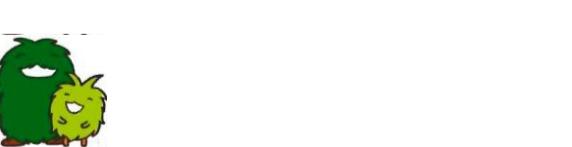
  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
<b>BEE = 1.1</b>					
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★ C: ★	30%: ★★★☆☆ 60%: ★★★☆☆ 80%: ★★★☆☆ 100%: ★★★☆☆ 100%超: ★★★☆☆				
					
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです					

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
<b>Q 環境品質</b>			
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>	<b>Q のスコア = 3.0</b>
			
<b>LR 環境負荷低減</b>			<b>LR のスコア = 3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>	<b>LR3のスコア=2.9</b>
			

3 重点項目			
<b>①地球温暖化への配慮</b>	<b>③敷地内の緑化</b>	<b>2.0</b>	<b>外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)</b>
		<b>2.0</b>	<b>21.2 %</b>
<b>②資源の有効活用</b>	<b>④地域材の活用</b>	<b>1.0</b>	<b>建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積)</b>
		<b>1.0</b>	<b>0.0 %</b>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
②資源の有効活用  
③敷地内の緑化  
④地域材の活用

外構緑化指標 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指標 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート	実施設計段階	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境						0.40			3.2
1 音環境				0.1	3.0	0.15			3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	3.0		
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40	-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.45	3.0		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.35	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.10	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.10	3.0		
1.3 吸音				-	3.0	0.20	3.0		
2 溫熱環境				0.3	3.0	0.35	-		3.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-		
1 室温				3.0	3.0	0.49	3.0		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.33	3.0		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.18	-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30	3.0		
3 光・視環境				0.2	3.3	0.25	-		3.3
3.1 昼光利用			昼光率が4%以上	0.3	4.2	0.30	-		
1 昼光率				3.0	5.0	0.60	3.0		
2 方位別開口				-	3.0	-	3.0		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	-		
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00	3.0		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15	3.0		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	3.0		
4 空気質環境				0.2	3.7	0.25	-		3.7
4.1 発生源対策			内装のほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用 建物全体が禁煙	0.5	4.0	0.50	-		
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00	3.0		
4.2 換気				0.3	3.0	0.30	-		
1 換気量				3.0	3.0	0.33	3.0		
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	3.0		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	3.0		
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	3.0	0.50	-		
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.0
1 機能性				0.4	3.0	0.40	-		3.0
1.1 機能性・使いやすさ		独自		0.4	3.0	0.40	-		
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.16	3.0		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.16	3.0		
1.2 心理性・快適性			十分な広さの休憩室を確保	0.3	3.1	0.30	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.42	3.0		
2 リフレッシュスペース				3.0	4.0	0.16	-		
3 内装計画				3.0	3.0	0.42	-		
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50	-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50	-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31	-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		②		0.4	3.0	0.48	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-		
1 車体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-		
2.4 信頼性			CATV、光ケーブル等の複数の通信設備を確保	0.1	3.2	0.19	-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-		
5 通信・情報設備				3.0	4.0	0.20	-		

3 対応性・更新性	②	壁長さ比率が保育所0.18、事務所0.36	0.2	3.1	0.29	-	-	-	3.1
			0.3	3.4	0.31	-	-	-	
			-	3.0	0.60	3.0	3.0	-	
			3.0	4.0	0.40	3.0	3.0	-	
			3.0	3.0	0.31	3.0	3.0	-	
			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
			-	3.0	0.17	-	-	-	
			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	③		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
			-	0.30	-	-	-	-	2.7
			-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
LR 建築物の環境負荷低減性	④		0.3	3.0	0.30	-	-	-	
			-	3.0	0.50	-	-	-	
			-	3.0	0.50	-	-	-	
			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR1 エネルギー	①	BPI=0.72	-	0.40	-	-	-	-	3.2
			3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー	②	BEI=0.76	3.0	3.4	0.30	-	-	-	3.4
			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4 効率的運用	③		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル	④	節水型便器の採用	-	0.30	-	-	-	-	2.8
			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル	②	- 構造躯体と仕上げが容易に分別可能	0.6	3.0	0.63	-	-	-	2.7
			-	2.0	0.07	-	-	-	
			-	3.0	0.24	-	-	-	
			-	3.0	0.20	-	-	-	
			3.0	1.0	0.20	-	-	-	
			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	③		3.0	4.0	0.24	-	-	-	3.0
			0.6	3.0	0.32	-	-	-	
			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境	①	ライフサイクルCO2排出率84%	0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
			3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.6
			0.3	2.6	0.33	-	-	-	2.6
2 地域環境への配慮	②	- 十分な台数の駐車、駐輪スペースと管理車両のスペースを確保した	-	3.0	0.25	-	-	-	
			-	2.0	0.50	-	-	-	
			0.2	3.5	0.25	-	-	-	
			-	3.0	0.25	-	-	-	
			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮	③		5.0	0.25	-	-	-	-	
			3.0	0.25	-	-	-	-	
			0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
3 周辺環境への配慮	④		1.00	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
			3.0	0.70	-	-	-	-	
			3.0	0.30	0.30	-	-	-	
3 周辺環境への配慮	②	- 0.20	0.2	1.6	-	-	-	-	
			1.0	0.70	-	-	-	-	
			3.0	0.30	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**  
(仮称)愛生館 複合施設

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:21.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}$   
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)愛生館 複合施設

計画上の配慮事項	
総合	建物の高さを抑え、落ち着いた色調のデザインとすることで、周辺の景観に配慮した。敷地内に果樹園・菜園を設け、園庭を芝生とすることで周辺への熱的な影響に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を広く設けることで居室の昼光利用に配慮した。内部仕上のはぼ前面にF☆☆☆☆☆の建材を採用することで化学汚染物質による屋内の空気汚染の回避に配慮した。
Q2 サービス性能	十分な広さの休憩室を設けることで、従業員の快適性に配慮した。CATV、光ケーブル等を設置することで通信・情報の信頼性向上に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	20%以上の外構緑化率とすることで生物環境の保全と創出に配慮した。建物高さを抑え、落ち着いた形状の建物とすることで周辺の景観に配慮した。
LR1 エネルギー	複層サッシ等により高い断熱性能とすることで外皮の熱負荷抑制に配慮した。高効率な設備を採用することで消費エネルギーの低減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水型の便器を採用することで水資源保護に配慮した。内装の下地に軽鉄を採用することで分別を容易にし解体時におけるリサイクルの促進に配慮した。
LR3 敷地外環境	駐車場は従業員と送迎者用をエリア分けし、十分な台数を確保した上で出入の動線を分けることで周辺道路の渋滞緩和に配慮した。
その他	